2022年03月19日 中日新聞 朝刊 25頁

新聞で育てる！学力の基礎

中日こども WEEKLY ウィークリー 新聞でまなぶ

「中日こどもウイークリー」は今春、小学校低学年から読めるよう、新しい企画を始めます。紙面を２倍楽しみたい読者には、中日文化センターと連携した実践講座もあります。子どものころから新聞に親しむ意義はどこにあるのでしょうか。「新聞で学力を伸ばす」（朝日新書）などの著書がある明治大の斎藤孝教授へのインタビューや、読者の声からヒントを探ります。

切って貼って自分のものに

教えて！斎藤孝先生

学力の基本は国語力です。母語で学習する上で、語彙が足りないと理解が進みません。新聞は、極めて正確な文章で書かれています。多様な解釈が可能な文学とは違い、記事は基本的には意味が一つに決まっている。言語の理解力や運用能力を育てるとで、新聞は非常に優れたテキストです。

興味の幅広げる

また、新聞には今起きている出来事が凝縮されています。新聞に親しみ、社会に関心を持つと、社会の中で自分が生きていることが分かる。人間の成長にとって大切なことです。興味や知識の幅を広げることが、学力につながります。

新聞は難しい印象があると思いますが、あまり子どもを甘やかさないことが大事。小学四年生以上なら、新聞を読むのは当たり前、と捉えた方が良いです。

毎日一緒に音読

小学生が大人の新聞を読む場合は、大人と一緒に読んで慣れることも一つのやり方。一日一本、記事を一緒に音読する。言葉の意味やニュースの背景も、簡単に説明してあげましょう。

「この中で一つだけ人に説明したい記事は？」と聞いて、子どもに選んでもらってもいいと思います。自分のアンテナが立つようになります。記事を切り取ってノートの左側に貼り、右側に記事の要約や図、コメントを書く。自分にとって遠いものだった記事が、切り取ると「自分のもの」というふうになります。貼り付けてコレクションし、人に内容を説明することで、理解が確実になります。

私の実家では新聞を複数購読し、子どもの頃は小学生新聞を読んでいました。振り仮名が振ってあり、絵や図、マンガがある。隅から隅まで読んでいました。

新聞を読んだら、家族で話すことが大事です。社会の問題について調べ、語り合う。それができれば、その後の学習はおよそスムーズにいくと思います。

さいとう・たかし　1960年、静岡市生まれ。東京大法学部卒。同大大学院教育学研究科博士課程等を経て、明治大文学部教授。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。「声に出して読みたい日本語」（草思社）、「小学生なら知っておきたい教養366」（小学館）など著書多数。

役に立ちます！多彩な紙面

「青い鳥文庫」で本好きに

愛知教育大3年 大津桃花さん

愛知教育大三年の大津桃花さん（二）＝愛知県稲沢市＝は小学四年の時、環境問題にまつわる新聞記事の切り抜きを始めました。牛乳パックの椅子作りなど身の回りの資源を活用する授業がきっかけでした。翌年、中日こどもウイークリーの創刊を知り、両親に購読をお願いしたそうです。

特に楽しみにしていたのが児童書「青い鳥文庫」（講談社）の連載。二〇一三年七月に始まった「番外編 若おかみは中学生！」は、主人公の「おっこ」に自分を重ね、まず最初に目を通していました。文庫本も買うなど、「さらに本が好きになった」と話します。

中央見開きの「日本まんなか図鑑」（現在の「まるごと大図解」）も好きなページ。地元、稲沢のギンナンや中部のお雑煮特集など「教科書を読むより楽しい」と読み込んだそうです。

「中日新聞に載った記事が分かりやすく書いてある」というニュース面はきょうだいにも薦め、高校三年生の秋まで読み続けました。

愛教大に進み、小学校教諭を目指しています。今は教育の記事を中心に中日新聞を読んでいますが、「先生になったらウイークリーを使った授業をしたいです」と夢を膨らませます。

姉妹で活用

「大図解」がお気に入り

沖縄のサンゴ礁を紹介した見開き紙面。「きれいだね」と見入る妹に、「写真や絵を見るだけでも分かることがあるんだよ」と姉が優しく声を掛ます。

名古屋市の小学四年、平野優梨さん（七）は、二年生の妹愛梨さん（六）に中日こどもウイークリーの楽しさを伝えています。コンピューターグラフィックス（CG）や写真を多用した「まるごと大図解」がお気に入り。大切に保管しているSDGs（持続可能な開発目標）シリーズの十四番目「海の豊かさを守ろう」の紙面を開き、「学校の社会の授業でSDGsを習っていて、ポスター作りに役立ちました」とにっこり。

「日本や世界で起こっていることが分かりやすく書いてあります。大人になったみたいで楽しいです」

中学生も

サクサク歴史に親しむ

名古屋市の中学三年、山口歩さん（十五）は、歴史漫画「サクサク読める!!日本史人物伝」を楽しみにしています。「特に戦国時代が好き。織田信長や豊臣秀吉の時はわくわくしました」と話します。

小学六年の時、社会で歴史の授業が始まると、その面白さに気付きました。「人間」が主人公で、歴史上の人物も、ちょうどいい分量で振り返ることができる。理解が深まります」と歴史漫画の紙面を薦めます。歴史に親しむことで得意科目の社会がもっと好きになったそうです。

それぞれの思いが重なり合って歴史になっている。戦国時代ならのし上がろうとしたり、時には協力し合ったり、策略を考えたり。

いろいろな歴史の本を読んできた山口さん。「すでに本で読んだ人物も、ちょうどいい分量で振り返ることができる。理解が深まります」と薦めます。

わくわく新コーナー！

これみて！

new

小学校低学年から読める１面の写真企画「これみて！」が４月２日付から始まります。目を引く写真とともに、国内外のニュースや季節の話題を分かりやすく紹介。平仮名が多く、小３までに習う漢字を使います。新聞を手に取ったばかりの子どもたちにぴったりです。

サクサク読める!! 世界史人物伝

new

「サクサク読める!!日本史人物伝」の世界史編が４月９日付からスタート。主に中学や高校で学ぶ世界史に登場する、歴史上の人物が主人公です。２～３週完結で、年表やクイズが付くので、楽しみながら知識が身につきます。初回は「レオナルド・ダ・ヴィンチ」。

中日文化センター × トントン拍子 まなぶっとやってみよう!

new

メインキャラクターのまなぶっが、運動や工作に挑戦する「まなぶっとやってみよう！　トントン拍子」。「もっと知りたい」と思ったら、名古屋・栄の中日文化センターと連携した講座がお薦め。初回は19日付の「駆けっこ」の紙面をもとに、５月に開く「かけっこ教室」です。６月にはコラム「親の時間子の時間」を執筆する柴田朋子さんによる子育て講座もあります。

information

無料で ためしよみ、できます！

こちらからお申し込みいただくと、近くの販売店から中日こどもウイークリーを1部お届けします

毎週土曜日お届けいたします　月額550円（税込）　中日新聞とあわせて購読される方は月額500円 1部150円

タブロイド判、12ページ　配布エリアは中部3県です（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県、滋賀県、福井県、石川県、富山県）　※一部配達できない区域アリ。お問合せください

お申し込み・お問い合わせは お近くの中日新聞販売店 または フリーダイヤル 0120-454010 中日こども 検索

※購読料の改定が行われた場合は新購読料とさせていただきます。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています